

はるちゃんのお皿の中にいたピーマンとトマトが話しかけてきました。

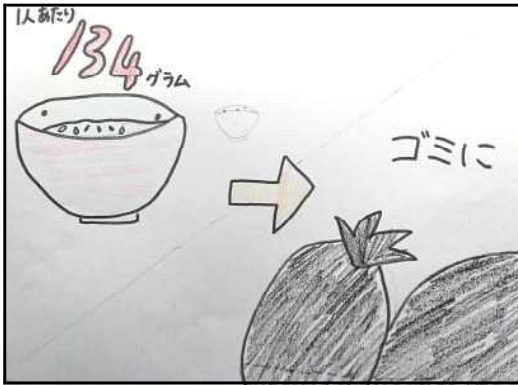
「はるちゃん。おいしく食べてくれてありがとう。」

(トマト)

「だいすけくん。どうしてぼくたちを食べてくれないの？」(ピーマン)

「だって、苦いからおいしくないんだもん。」

「じゃあ、みんなに食べてもらえなかったわたしたちはどうになってしまうのか教えてあげる。」

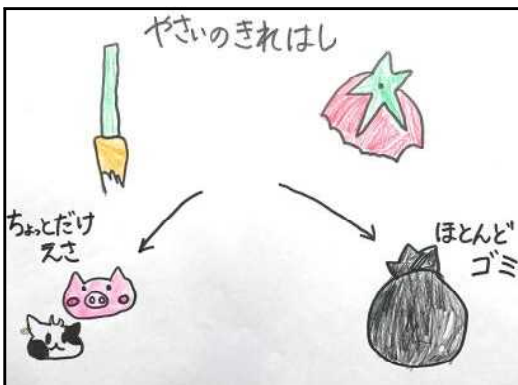


だいすけくんとはるちゃんは、ピーマンとトマトと一緒に旅にでかけました。

「みんなが残してしまった給食はね、全部まとめてごみとして捨てられてしまうの。」

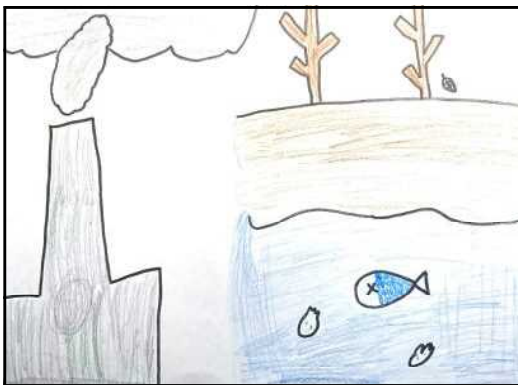
「給食だけではなくて、日本では1日一人あたり134グラム、お茶わん1杯分くらいの量が毎日捨てられているんだ。」

「やさいの切れはしなどは、牛さんやぶたさんなどのえさになることもあるけど、ほとんどがごみとして捨てられる。そして、そのごみが増えると、環境にもよくないんだ。」



「牛さんやぶたさんのえさになれることもいいけれど、元気に大きく育ったぼくたちを、だいすけくんたちがおいしく残さず食べてくれたら、もっとうれしいな。」

「ちょっと苦いかもしれないけど、給食では栄養士さんがおいしく食べられるように味つけを考えてくれて、調理師さんが一生懸命作ってくれているんだよ。」



「きっと、だいすけくんやはるちゃんのおうちでも、おいしく食べられるように、おうちの人がたくさん考えて作ってくれていると思うよ。」

だいすけくんとはるちゃんは、トマトとピーマンと一緒に、旅からもどってきました。

「給食のこと、食べ物のこと、とてもよくわかったよ。」

「農家さんや料理を作ってくれた人が、一生懸命育てて調理した食べ物を、きれいだからといって残すのはよくないんだね。」

「今度から、一口でもいいから食べてみようかな。」



トマトとピーマンと一緒に旅をさせていただいただいすけくんとはるちゃんは、次の日から、給食をおいしくもぐもぐもぐもぐ。元気いっぱい、丈夫な体を作るため、きれいな食べ物でも少しずつ食べています。

おしまい。